

北信濃里山通信 vol.32

2018年10月28日発行

北信濃のアサマシジミ

福本匡志

長野県では希少野生動植物保護条例により絶滅の危険性が高い動植物を保護し、回復が図られるよう現在80種の指定希少野生動植物（うち特別指定20種）を定め、捕獲・採取や殺傷・損傷することを規制しています（これらの行為をする場合は県知事に届け出が必要です！特別指定種は原則禁止！）。

昆虫類（無脊椎動物）では、オオルリシジミを始め5種と12亜種、2地域個体群が指定されています（うち特別指定種として3種と1亜種）。これらのうち2016年の見直しで、ゴマシジミ（「本州中部亜種」と「八方尾根・白山亜種」の2亜種）、アサマシジミ（「本州高地帯亜種」と「本州低地帯亜種」の2亜種）、他に高山性の蝶3亜種が追加され、いずれも高山性（温暖化による環境・植生変化が懸念）や草原性の昆虫類で、絶滅が危惧されています。

ゴマシジミとアサマシジミはオオルリシジミと同様、減少が著しい草原性の蝶です。

ゴマシジミは、食草はワレモコウですが、4齢幼虫でアリ（蟻）の巣に運ばれ、体表に分泌された蜜をアリに与えながらアリの幼虫を食して育つという特異な生態をもっています。本州中部亜種は環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠA類、生息地のある長野市や松本市では保全活動が行われています。北信濃では過去に生息していた記録があったようですが、現在では確認されていません。もし見つけられた方がいらっしゃいましたら、御連絡を・・・。



ゴマシジミ成虫（長野市にて）
会員の花崎秀紀さん提供

さて、本題のアサマシジミ。北海道と本州中部に分布し、「北海道亜種」、「本州高地帯亜種」、「本州低地帯亜種」の3亜種に分けられます。

オスの翅表は黒褐色の地に明るい青色が乗る色彩で、メスは暗褐色です。裏面は灰白色の地に小黑斑と橙色帯があります。よく見られるヒメシジミと似ていますが、翅表の青色の出方や裏面小黑斑の形状が異なります。



アサマシジミ♂成虫
2008年7月北信濃某所にて撮影

本州中部に産する「本州高地帯亜種」は環境省絶滅危惧Ⅱ類で、北アルプス周辺（上高地や白馬岳など）、妙高・戸隠連山に生息し、「本州低地帯亜種」よりも翅の青色が発達します。「本州低地帯亜種」は環境省絶滅危惧ⅠB類で、長野県、群馬県、山梨県などの里山低山地の草原に生息し、生息環境の変化や採集者の影響により姿を消しつつあります。

アサマジミは年1回の発生で、成虫は6月～7月頃見られ、卵で越冬、翌春ふ化し、低地帯での幼虫はナンテンハギやヨツバハギ（マメ科）を食べて育ち、体表から蜜を分泌して、外敵からアリに守られます。

アサマジミ「本州低地帯亜種」は、現在県内では、北安曇や東信～北信地方などで、かなり限定的に産地が点在していますが、北信濃の産地は分布域の北東端に位置し、本種の生態を研究する上でも貴重な産地で、是非、将来にわたって遺したいところです。

前回、この生息地を訪れたのは10年前。現在、どうなっているのか気になり、本年7月7日に当地を訪れました。

生息環境は山の裾野で、昔と比べ樹林帯がやや広がった感がありましたが、草地や食草を含む植生は残されており、オス3頭とメス1頭を観察できました（右写真）。他にイチモンジチョウやヒョウモンチョウ類、コキマダラセセリなどが見られ、アサマジミとともに花に吸蜜に訪れていました。

今年は気温が高めに経過したためか、本種の発生は早かったようで盛期をやや過ぎ、観察したオスの翅はすべて破損していましたが、まずは確認できて一安心。ただ、発生量は多くなく、産地の維持が心配されるところでもあります。オオルリシジミにもあてはまりますが、小規模な生息地が孤立してしまうと絶滅の危険性が高くなり、近隣に個体交流できるような複数の生息地が必要であることが、産地維持のためには重要といわれています。今後、周辺地域も調査しながら本種を見守っていきたいと考えます。

なお、本種もオオルリシジミと同様、採集者のターゲットにされやすく（許可なく採集はできませんが・・・）、場所の詳細などの記述は今のところ控えさせていただきます。



アサマジミ幼虫 2007年5月撮影



アサマジミ♂



アサマジミ♀

お知らせ

「2018 カヤ刈りワーキング」

恒例になりましたが、本年も飯山市内のオオルリシジミ生息地でススキの採取「カヤ刈り」を行います。

オオルリシジミ生息地では10月18日に看板・監視カメラ・保護区ロープの撤収作業、10月28日に通路の草刈り・環境整備作業を実施。カヤ刈りの準備が整いました。

過繁茂抑制（太い茎はNG!）のため6月16日に夏刈りを行ったススキは、右の写真のようになり、草丈は短め、茎数は少なめですが（夏の干ばつの影響もあった?）、茎は太すぎず、いい感じです。

ススキの穂が風にたなびき、すっかり秋の気配。これからススキが霜にあたって枯れ込んだ頃が刈りどきですが、降雪など天候が悪くならないことを祈るのみです。



本年の「カヤ刈り」は以下のとおり行います。作業には刈り取りの他、選別や結束・搬入など人手がかかりますので、多くの方に御参加いただきますようお願いいたします。会員のみならず、一般の方も歓迎です。参加者には慰労として、「戸狩温泉利用券」を進呈します。

日時及び集合場所（作業場所）

日時 平成30年11月17日（土）9:30～15:00（9:00～集合・受付）
集合場所 「飯山市公民館」駐車場（9:00集合、その後作業場所に移動）
作業場所 飯山市オオルリシジミ生息地

日程

9:00 集合（「飯山市公民館」駐車場）、受付、移動
9:30 開会・日程説明など
9:35 カヤとその利用についてのおはなし
9:45 作業説明、作業班分け（刈り取り、選別、結束、運び出しなど分担）
9:50 午前作業開始
12:00 午前作業終了、昼食
13:00 午後作業開始
14:50 午後作業終了、収穫したカヤの講評など
15:00 閉会、カヤを飯山市静間・荒船農村公園へ搬入。

参加申し込み

飯山市ふるさと館TEL:0269-67-2030（担当：宮澤、月曜日は休館日）へ、11月15日（木）までに連絡してください。

その他

作業に適した靴・服装で参加してください。刈り取りは鎌による手刈りですが、慣れない方には選別や結束などを行っていただきます。カヤ運搬のため、軽トラックで参加いただくとありがたいです。

昼食は各自で用意してください。副食に「豚汁」を用意します。中止すべきような悪天候が予想される場合は、前日夕方までに連絡します。状況により翌日・翌週に順延します。

活動報告など

本年のオオルリシジミ観察経過など

本年、戸狩地区のオオルリシジミ放蝶地では5月20日に成虫の発生が確認され（4♂1♀・いずれも羽化直後の個体）、例年よりも早く、5月26日には14頭確認、交尾個体が観察され、産卵も始まりました。6月1日が最盛期のようで、産卵シーズンを迎えたようでした。

6月10日は、第7回となった親子観察会。放蝶地から下の斜面にクララを植栽。近くではオオバクサが侵入・繁殖しており、気になるところです。この日、参加者20名の観察で、平均4.5頭のオオルリシジミと10種類の蝶が確認されました。参加者のみなさんも満足されたようです。その後は、6月24日に1♀を確認し、終見です。右の写真は花崎秀紀さん撮影です。

一方、元の生息地では5月22日から6月24日まで、成虫の発生調査を行いました。残念ながらオオルリシジミを確認することができませんでした。その後の幼虫調査でも、ルリシジミと思われる幼虫が多く、かなり厳しい状況です。来年度様子を見て、放蝶する必要性もありそうです。6月16日には生息地で環境整備の草刈りを実施。作業後は野鳥調査を行い、ヒヨドリ、ホオジロ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、ハイタカ、イカル、キビタキ、カワラヒワ、キジバト、サンショウクイ、ツツドリ、ノスリ、エナガ、コゲラ以上15種が確認されました。



メスに向かって突進するオス(6月1日)



オオルリシジミ親子観察会(6月10日)

編集後記

飯山市ふるさと館企画展『守ろう！つなごう！ 北信濃の生き物 ～蝶編～』が6月17日まで開催され、多くの方にご覧いただき、協力いただいた方々に感謝する次第です。準備不足なところもありましたが、これからも写真など情報収集しながら北信濃の蝶の魅力を伝えていければと思います。

右の写真はミヤマカラスアゲハ。青緑色に輝く美麗種で、今年、飯山市内の田植え前の田んぼに吸水に飛来したところを撮影しました。最近、自分の周囲では蝶の飛翔写真の撮影が流行っていますが、撮影方法など試行錯誤しながら挑戦中です。

会員のみなさまからも蝶を始め北信濃の生き物の写真など情報提供いただけましたら幸いです。



発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1434-1
飯山市ふるさと館内
TEL/FAX：0269-67-2030
E-mail：furusato@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志